

4-8 海岸の現況 (3) ～南茅部海岸～

次に、渡島東沿岸の南端部の南茅部海岸について、その概況を示します。

南茅部町(南茅部海岸)は、北海道の南端、渡島半島の南東部の噴火湾に面し、函館市に隣接しています。山地と台地が大部分を占め、万畳敷高原をはじめ陸域の豊かな自然と寒流の親潮と暖流の対馬海流が交錯し、噴火湾の豊かな海の恵みがあり、磯の香りに包まれた美しい海の風景を有する漁業の町です。気候は本州に近いので、初夏には梅雨があり夏は雨が多いのが特徴で、降雪量は少なく道内では比較的温暖な地域です。また、この地では縄文時代の遺跡が多数存在し、本州各地との交易を示す貴重な遺物が出土しています。

海岸沿いには国道278号が走り、産業は古くより林業・漁業を中心に発展してきました。町面積の93%を占める森林に対し、町有林経営に団地を形成し、計画的な管理・育成を図っています。漁業では『真昆布』が有名で、朝廷や将軍家に奉納されたため“献上昆布”と呼ばれています。豊かな漁業のため、豊富な魚種、良質な海草に恵まれ、就業人口の約6割が何らかの形で漁業に携わっています。地域の特性に即し、“管理し、つくり育てる漁業の実践”と加工業の育成強化を推進しています。商工業では、食料品製造業が多くを占めています。

本海岸は、ほとんどが崖、岩礁海岸であり、狭い平地に資産が集中しています。また、外洋に面しているため越波による国道通行止の被害、浸水被害を受けています。

環境面では、弁天岬の陸けい砂州、岩戸海岸や木直海岸そして立岩海岸や古部海岸の優れた海岸景観があります。また、隣接して恵山道立自然公園があります。

海岸保全施設は護岸、離岸堤、消波工・消波堤、そして突堤が整備されています。

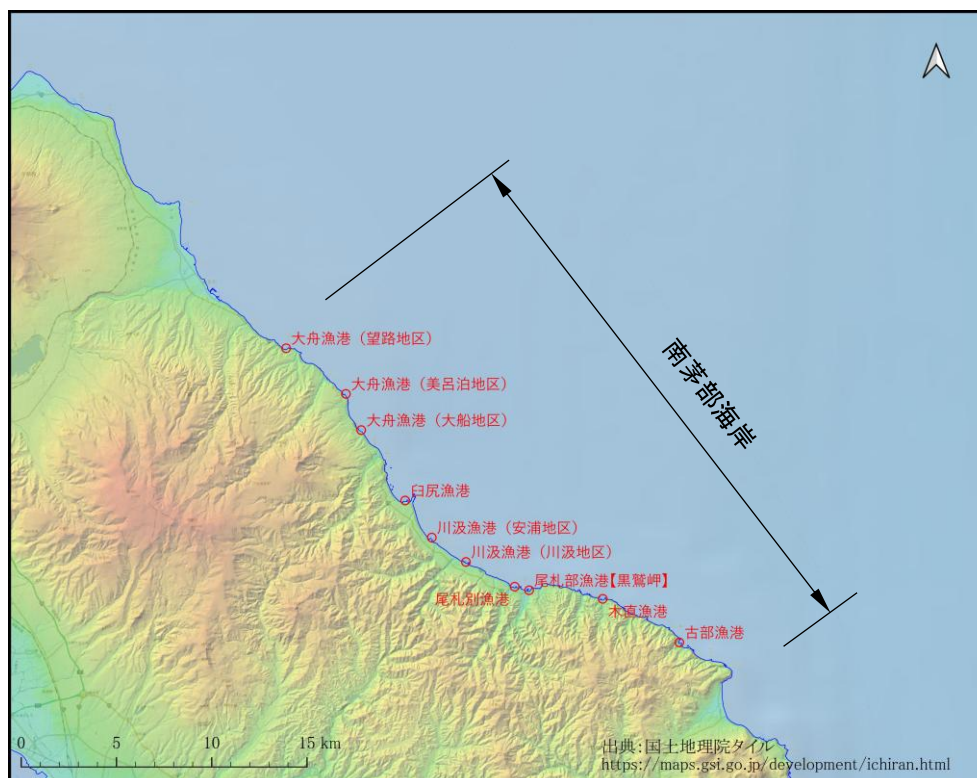


図-3 南茅部海岸範囲図

豊かな自然と古代遺跡のある南茅部海岸



写真- 17 空から見た南茅部海岸



写真- 18 黒鷲岬



写真- 19 木直獅子鼻岬



写真- 20 大船C遺跡